

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人 源勇会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	令和 元年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和1年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の医療機関が同一敷地内にあり、看護師は配置されており、日々の健康状態の把握に努め病気の早期発見や早期治療につなぐことができ、医師とも24時間連絡が可能、利用者、ご家族が安心して暮らすことができる環境となっている。
入居者の「今できていること」について工夫をし、役割をもち充実した暮らしとなるよう、計画作成にも活かし取り組んでいる。カンファレンス開催前には、全職員で問題意識を持ち、プランの実行についての意見やアイデアを書き出し活用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田園地帯にあり、同一法人の複数の施設がある敷地内の奥まったところに位置している。協力医療機関を中心とした他の施設を含めた協力的体制ができており、施設利用者間の交流も盛んである。協力医療機関が近くにあり、通院、リハビリ、いざという時の対応など健康面での入居者・家族が安心できる環境にある。運営推進会議や火災避難訓練をきっかけに、地域住民との交流の機運が生まれつつあり、ホーム独自の特色を生かした取り組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を掲げ、週替わりで朝礼時復唱している。理念を念頭におき日々介護に取り組むことができるよう職員にも呼び掛けている。		理念を事務室等に掲げ、申し送りや勉強会で唱和し、入居者にとって何が最善か話し合い、理念に近い目標を持ってケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の通所ケア利用者や医院受診者との交流。年に一度地域の祭りに参加、近隣の店への買い物などで交流を図るように努めている。		法人の関連施設が敷地内にあるため、近くのコンビニや店での買い物時の交流もある。しかし、地域住民の交流や以前ホームで高齢者サロンが開かれたこともあるが、現在は交流が少ない。	ホーム内で高齢者サロンを復活したり、ホームにボランティアや子供たちを含む地域の人々に来所してもらう等の交流が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ホームでの取り組みをお知らせ行っているが、地域に向けてはいかせていない現状			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日頃の生活状況や外出、レク活動などについて報告を行い、意見やアドバイスを頂き、より良いサービス提供ができるよう、サービスの向上に努めている。		定期的開催されており、参加者の意見を取り入れ、サービス向上に努めている。会議録を作成し、家族にもホーム便りとともに送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、おたっしや本舗、民生委員、区長等に相談できる関係づくりに努めている。		おたっしや本舗、民生委員や区長等、いつでも気軽に相談できる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行わず、玄関周辺についてを設置し、目隠しとしている。施錠は行っていないが自動ドアは手動で対応の事をご家族に伝え協力を得ている。年に1度勉強会を開催し周知に努めている。		勉強会を開催し、職員が日々の支援について振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族に協力を求め、状況に応じた部屋の配置等の工夫により、身体拘束を回避するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度、接遇等も勉強会を開催し、学んでいる。申し送りや、職員からの情報を基に指導を行い防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度勉強会を開催し、学ぶ機会を得ている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は不安を解消できるように説明を心掛けている。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、使用されたことはない。気にかかることは面会時に声をかけ、聞き出せた内容を基に反映できるように努めている。		家族の面会は多く、その際要望を聞いている。医療機関が同敷地内にあり、いざという時や健康面で安心しているという意見が多い。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や申し送りなどで業務に関する意見や提案については聞く機会は設けられている。必要に応じ反映できているものもある。運営に関しては反映できていないこともある。		毎月の勉強会、毎日の申し送りで職員の意見を聞いている。個別の相談も受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の就業意欲や実績、勤務状況に応じ、給与水準や職場環境の整備に努められている。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関する研修等についても積極的に取り組める体制が整備されている				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時には、交流の機会はあるが勉強会や相互訪問などは出来ていない				

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	添書や家族からの情報を基に、出来る限り本人、家族の要望に沿うケアの実施に努め、安心して暮らしていただけるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なことを相談しやすい関係づくりに努め、面会時には近況をお伝えし、要望等が話しやすい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	添書や家族からの情報を基に、計画作成者、管理者にて、必要な支援について検討し対応可能なサービスについて提示し、今最善と思われるサービスを提供出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」のような関係づくりに努め、利用者同士お手伝いをしていただいていることについては、感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ごとの情報を念頭に、負担なく安心して暮らしていけるよう、家族、本人の気持ちに寄り添えるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	再会を望む声があれば出来るだけ対応できればと思います。現状、法人内のサービス利用の知人の方などとの交流支援に努めている。		法人内の施設サービス利用者との交流希望が多く、実現できるよう配慮している。来訪者には過ごしやすい環境を整え、関係維持に努めている。なじみの理容店には、家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好き嫌いや性格の違いを把握した上で、ユニット間での交流も実践で来ている。視野に入ったり声を聴くことで、安心感を得れるように支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば可能な範囲で支援行えるよう努めているが、実際に相談を受けたことはない。近隣で会うことはあり、親しみをもち関わっている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中だけでは希望や意向の確認は難しいこともあり、日常の動作や表情から本人の視点より推察し、安全で安心した暮らしができるよう努めている。		本人との会話や、家族の要望から思いを汲み取っている。入浴時のゆったりとした環境が効果的である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の介護事業所、ケアマネ、家族、知人からの情報、本人との会話等から把握に努めている。入居により環境は変化しているため、ホームの暮らしに慣れ親しんでもらえるよう努めている				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	わずかな変化にも気づけるように、日々の変化について、個人記録や申し送り等で情報共有に努めている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催前には全職員より意見やアイデアを求め、より良いケアのあり方を考え、現状に即した介護計画となるよう努めている。		本人、家族の意向、かかりつけ医の意見を参考に、3ヶ月ごとのカンファレンスでは、全職員が意見を書き出し、モニタリング、記録、課題分析、計画作成と進み、情報の共有に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等は個別記録に残し、申し送りやカンファレンスにて共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズには、可能な範囲で対応できるよう意見を出し合い検討行っている。				

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り(神輿ぐり)や法人内の納涼祭、デイ利用者との交流ができ、その方の存在の大切さを感じながら支援できている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは24時間連絡が可能で、適切な医療が受けられるよう支援できている。医師の判断で他の医療機関へ入院となることもある。		入居者の主治医はほとんど協力医であり、24時間連絡可能である。他科受診の場合は、家族の協力やホームの支援で行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中での気づきや変化については申し送りでも共有でき、適宜看護師への報告や医師への相談にて受診につながるよう支援できている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内のかかりつけ医への入院では、日頃より医院関係者との関係づくりはでき、情報の交換、相談もできている。他の医療機関においても、情報交換や相談できるように努めている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には説明を行っている。重症化の際には、医師からの説明、話し合いを基に家族の想いに沿ったケアができるよう支援している。		契約時に説明を行い、主治医の説明、本人・家族の意向で看取りを行う体制はできている。ターミナルケアに必要な勉強会を開き、欠席の職員には資料を配り周知を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度救急法についての勉強会に参加し急変時対応について学んでいる。状況の観察、看護師との連携、医師への報告は日々実践し努めている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、定期的に自主訓練を実施し身に付けるよう取り組んでいる。地震や水害については定期的ではない。地域との協力体制は近隣の高齢化にて難しい状況。		年2回消防署立ち合いの夜間想定火災避難訓練を実施している。水害の避難先は法人内の施設となっており、法人内の協力体制ができてきている。地域との協力体制づくりはまだ十分ではない。	訓練時地域住民の意見もあり、災害対策に地域の協力を取り入れた体制作りが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという認識のもと声掛けや言葉使いに気を付けているが、できていない日もある。		申し送りや勉強会で、接遇について振り返る機会を設けている。現場ではお互いに注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面において、意思決定ができるように働きかけて「いる」、「いない」と答える職員は半々。本人の思いや希望は関わりの中で聞くこともできている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは概ね決まっている。体調やその日の気分を最優先に過ごせるように努めているが、希望には添えていないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に心がけその人らしさを大切に、持参されているもの(シャンプー、化粧水等)を使用しその人らしさに気を付けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は出来ていない。時々「つぎ分け」は利用者の力を活かし取り組んでいる。毎日台拭きやお膳拭き、おしぼり数え等を(役割として)取り組まれている。活動時にはメニューを伝え食事が楽しみになるよう努めている。		可能な入居者は、テーブルの準備や後片づけに参加している。年に1～2回希望を聞いて外食の機会を設けている。参加できない入居者には好みの物を準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取確認表を基に、申し送りなどでも情報を共有し取り組んでいるが、思うように勧めることができていない日もある。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に対して、毎食後の口腔ケアはできていないが、夕食後には、促しや介助できている。必要に応じて歯科往診や衛生士による指導を受けることもある。			

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基にタイミングを把握し定時外でも案内行いトイレでの排泄を促している排泄用品については、ご家族に排尿状況を伝え適切な用品を使用できるようにしている。		排泄表でパターンを把握して誘導し、自立に向けた支援を行っている。現在昼間の紙おむつ使用者はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示にて、緩下剤などを併用し、運動や水分摂取(お茶ゼリー)を勧めたり家族の協力にて乳製品を定期購入している方もいる。全身運動も取り入れ、散布を促したり、腹部マッサージを行う。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、曜日はこちらで決めているが、体調や外出、面会などの状況に応じて対応行い、ゆっくりと入れかわりが持てるよう取り組んでいる。		週3回入浴日は決めているが、体調、入浴順番等により毎日いつでも入浴できる体制を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や適度な運動を介護計画にて取り入れ、夜間の良眠に繋げるよう支援している。健康状況にも配慮し休息できるよう支援に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の収納袋に内容を書き出している。症状や副作用については、情報提供書や看護師から情報を得、理解に努めているがすべての内容について理解はできていない。内服変更については、申し送りにて情報の共有を行っている	処方された薬は、服薬まで数名のスタッフが確認する体制をとっている。与薬時は、日付け、氏名、内服時間(朝等)と本人の確認を行い、誤薬予防に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員には実施できていないが、各々の出来る事を役割や気分転換として日々取り組んで感謝を伝え継続できるように努めている。嗜好品については適宜勧めることができています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望での外出は出来ていない。法人内であれば、その日の希望で出かけることもある。定期的に買い物や外食などの行事で対応できるよう努めている。ご家族にも協力いただき、散髪や受診など行っている。		広い敷地内の散歩を楽しんでいる。誕生日には、入居者の希望を聞き、外食などの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(A/Bユニット共通)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援や外食等の際は、支払い等の際には、本人に支払いの機会をもてるよう支援行っている。金銭の所持については、ご家族の理解を得て、少額もたれている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば取次や代行は随時対応できている。ご家族で、便箋、切手等用意			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節を感じることでできるカレンダーの制作をし掲示		中庭には花が絶えないよう工夫され、ホーム内は清潔であり、換気も行っている。毎月季節感のあるカレンダーを掲示し、入居者の塗り絵が多く掲示されている。他からの作品も展示してあり、賑やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日、その時に一番落ち着く場所で過ごすことができるように、又、気の合う利用者同士の談話や交流ができるような配置に気を配っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ち込んでもらうことも可能。身体の状態や介護の状況に応じ配置をご家族とともに検討し、心地よく暮らせるように工夫している。		入居者の希望に合わせた量の部屋もあり、なじみの家具等が配置されている。家族の協力を得て、入居時や状況の変化に応じて、入居者が安全に居心地よく暮らせるように配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、散歩の励みになるように「もう少し」「まだまだ」の張り紙を行っている。居室を迷うことがある方には分かりやすく掲示している。			